

# りんご おいしいね

## ちいさいおうち

ばーじにあ・りー・ばーとん ぶんとえ いしい ももこ やく 岩波書店 Eーバ

むかし、ずっといなかのしずかなところにちいさいおうちがありました。まわりはあきになるとりんごつみがはじまり、ちいさいおうちはおかのうえからじっとみていました。そのうちちいさいおうちのまえを、たくさんのくるまがいたりきたりするようになりました。あたりはまちになり、ひなぎくのはなもりんごの木もありません。

## おばけリンゴ

ヤーノシュ さく やがわ すみこ やく 福音館書店 Eーヤ

むかし、ワルターというおとこのひとがリンゴのきをいっぽんもっていましたが、まだひとつもみになったことはありません。ワルターがリンゴがなりますようにといのっていると、はるにしろいはながひとつさきました。あきがきてリンゴはひましにおおきくなり、とおりがかりのひとはリンゴのきをみては、びっくりしてたちどまりました。

## りんごのき

エドアルド・ペチシカ ぶん ヘレナ・ズマトリーコバー え うちだ りさこ やく  
福音館書店 Eーズ

あるひ、にわがゆきでまっしろになりました。りんごのきははっぱがついていないので、ぼうみたいです。マルチンはにわにでて、りんごはいつなるのとりんごのきにききました。はるがきて、りんごのきに、はながいっばいさきました。そしてなつがきて、りんごのみがふたつおおきくなりました。

## リンゴの木の上のおばあさん

ミラ・ローベ 作 塩谷 太郎 訳 岩波書店 943ー0

アンディはおばあさんがいないので、さびしい<sup>おも</sup>思いをしていました。おかあさんは、アンディにおばあさんの<sup>しゃしん</sup>写真<sup>み</sup>を見せてくれました。そして、庭のリンゴの木<sup>き</sup>にのぼると、写真のおばあさんがあらわれます。おばあさんは手<sup>て</sup>さげからきっぷ<sup>て</sup>をとりだし、アンディをゆうえん<sup>ち</sup>地にさそってくれました。

## 魔法使いのチョコレート・ケーキ

マーガレット・マーヒー 作 石井 桃子 訳 福音館書店 933-マ

あるところにひとりの魔法使いがいて、魔法はうまく使えませんでした。料理の腕まえはたいしたものでした。魔法使いは町じゅうの子どもたちにパーティーの招待状を送りますが、だれひとりやってきません。ある日、一ぼんのリンゴの木をみつけた魔法使いは、リンゴの木のために肥料ケーキをつくり、いっしょにチョコレート・ケーキをたべながら話をしました。

## ミオよ わたしのミオ

アストリッド・リンドグレーン 作 大塚 勇三 訳 岩波書店 949-リ

9才のボッセは、ほんとうのおとうさんをしりません。ある日、ボッセは果物屋のルンディンおばさんからリンゴをもらい、葉書をポストに入れるようにたのまれました。ボッセがポストに入れようとしたとたん、葉書の字が火文字になり、リンゴは金色になりました。そして公園でひろったびんのなかには魔神がいて、金のリンゴをもったボッセを見て、『はるかな国』へつれていきます。

## ミス・ヒッコリーと森のなかまたち

キャロライン・シャーウィン・ベイリー 作 坪井 郁美 訳 福音館書店 933-ベ

ミス・ヒッコリーは、頭はヒッコリーの実、胴体はリンゴの木の小枝でできています。トウモロコシの芯でできた家は大好きでしたが、ひっこしすることになりました。カラスにおしえてもらった新しい家は、リンゴの木にすえられた、大きな底の深い鳥の巣でした。カラスはミス・ヒッコリーに友だちをつくったり、探検したりといくらでもやることは見つかるといいます。